

大日本タイポ組合

Adobe® Creative Suite® 3 Master Collectionが 「文字」にこだわるデザインユニットの 作品づくりを全面サポート！

アプリケーションの進化がデザインユニットの発想に与える影響とは？



塚田 哲也氏

秀親氏

「大日本タイポ組合」は、現在のデザイナーズシーンで活躍するデザインユニットだ。

「文字で遊ぶ」をテーマにした個性的なタイポグラフィを15年にわたり制作しつづけている。これまでに数々の賞を受賞。海外での個展も成功させ、日本を代表するタイポグラフィユニットとして注目されている。

発想する楽しさをあたえてくれる、大日本タイポ組合のタイポグラフィ作品

大日本タイポ組合が手がけたデザインワークの数々。アルファベットの積み木からは、英文字や漢字、さらにさまざまな図形を作り出すことができる仕掛けになっている。大日本タイポ組合が手がけるデザインワークにはどれも遊び心がふんだんに散りばめられている。



重ねると文字が浮き出るデザイン「YMC フォント」

一枚一枚は、透明フィルムに3色分版された図形にしか見えないが、3枚のフィルムを重ねるとアルファベットが浮き出る仕掛けになっている。Illustratorのレイヤー機能から発想されたデザインワーク。



普段、見慣れていると思っていた漢字が、よく見るとカタカナをうまく組み合わせて作られたオリジナルのタイポグラフィだった。

二人のデザイナーによるデザインユニット“大日本タイポ組合”は、本来、職人の領域とも言えるタイポグラフィの世界に遊び心を持たせ、デザインワークに還元することで、个性的で独特な文字の世界を作り上げて来た。そんなお二人に現在のクリエイティブ環境や創作タイポグラフィにおける発想の源について伺った。

創作文字のきっかけは卒業ポスターの制作だった

そもそも二人がユニットを結成するきっかけは、当時二人が在学していた多摩美術大学の卒業制作展ポスターを制作することに端を発している。

多摩美術大学では、毎年、ラフォーレ原宿で卒業制作展を開催し、そのポスターも学生の手で制作されていた。その時、塚田氏と秀親氏の二人を含む数人の有志が集まり、二人の卒業年のポスター制作を担当することとなる。

当時、二人は写真を専攻していて、連日現像、プリントに明け暮れる毎日だった。

そんな暗室での日々の中、「多摩美の暗室には準備室というのがあって、そこに露光時間などを記録するメモ帳が置いてあるんですけど、それにデザインのアイディアを落書きしていたんですね。なんとなく“タマビ”という片仮名を組み合わせていたら“祭”の漢字に似たタイポグラフィができあがった。これは面白いということで、“クラブ”“卒展”あと“ラフォーレ”も漢字風にして、四文字熟語のように組んでみたんです。」

現在の二人を象徴する創作文字は意外なところで作られていたことになる。こうして出来上がった、二人にとって初めての作品だったが、“いったいどここの文字なんだ”と教授の間では理解されなかったようだ。しかし、その中にある不思議な感覚を二人は見逃さなかったのだ。

CS3ではそれぞれのアプリケーションを意識することなく
モノ作りに集中できますね

大日本タイポ組合 デザイナー 塚田 哲也 氏



オーダーメイドによる印鑑の制作

以前、個展会場において、オーダーメイドによる人名のタイポグラフィを制作した。大日本タイポ組合が、作品そのものに意味を持たせるきっかけとなった作品だ。図は「タカハシ」という人名を、ファミコンゲームの達人として活躍していた「高橋名人」から連想した「名人」という漢字に置き換えている。

ユニークなユニット名の由来

二人は多摩美術大学を卒業後、秀親氏は美術系予備校の講師、塚田氏は広告代理店とそれぞれの道を歩んでいたが、東京タイポディレクターズクラブ（現・東京TDC）のコンペには毎年欠かさず出品していた。これが当時、彼らのモチベーションを維持することに役立っていたのだそうだ。以後、毎年のように入選を果たし、自信へと繋がっていく。

「本格的に二人で活動していこうと考えたのはそのくらいの時期ですね。ユニット名を考えようということになって、どうせなら大きく行きたい。ということでまず“大日本”という言葉が浮かびました。で、まあ連合とか結社とか色々案が出たんですが、あまり派手なものちょっと…。ということで“組合”くらいがちょうどいいんじゃないかということで落ち着きました。」

あとで気づいたそうだが、本来「タイポ」とは「誤植」を意味するのだそうだ。図らずも意図的に誤植を作り出す彼らの作品にマッチしたユニット名となったわけだ。

国内での展示はもとより、スペインのバルセロナやロンドンで個展を成功させたことで自信をつけた彼らは「大日本タイポ組合」として本格的に活動を開始することになる。

「当時のMacには書体が二種類くらいしかなかったし、Illustratorにもアウトラインを作成する機能がなかったので、そのまま使うわけにはいきませんでした。なので、大きく拡大した写植の中から、見えそうなパーツを切り出して組み合わせて、アウトラインを手作業で墨入れし、それをスキャンしてIllustratorでトレース。紙焼きに出力したものに製版指定を入れて作りました。」

Illustratorが進化することによって、徐々にトレース作業をすることもなくなったという。

創作文字での印鑑作りから書籍デザインまで

カタカナを組み合わせて漢字風のタイポグラフィを作り出すというスタイルは二人にとって、大きな発見であった。しかし、単に漢字風のタイポグラフィを作り出すだけではなく、作品に意味を持たせるきっかけとなったのが、印鑑作りだった。

「あるイベントで個展会場に来てくださった方の名前をその方の個性に合わせた漢字に組み立て、印鑑として制作したんです。たとえば、同じ“タカハシさん”であっても、こちらのタカハシさんは長男なので“兄”という字に似せたり、外国人の方には“外”という字に似せた文字を作ったりしました。」

これまでの創作文字に意味を持たせることで、より多くの人に受け入れられたそう。印鑑作りは好評を博し、プロジェクトを終えた今でも問い合わせが来るという。

二人の作品が徐々に浸透していくにつれて、デザインの仕事依頼も多くなっていく。

アイドルグループ「V6」のメンバーである井ノ原快彦氏の著作である『イノなき』という本では、カバー、本文デザインを担当した。二人のこだわりである創作タイポグラフィをふんだんに散りばめた個性的なデザインに仕上がっている。

「この本では、コラム中にあるイラストも担当しました。コラムの内容に合わせて一字を選び、イラストに仕上げています。“挿し絵”ならぬ“挿し字”と呼んでいますけど（笑）」

また、最近では紙媒体におけるデザインワークのみならず、Flashを利用した携帯の待ち受け画面や文字が変化するアニメーションを作成する仕事にも携わっている。

会社データ

大日本タイポ組合
東京都渋谷区

<http://dainippon.type.org/>

チャレンジ

Illustratorで作成したアートワーク作品をFlashへコンバートし、アニメーションを作成。アニメーション制作や携帯電話の待ち受け画面制作などに利用する。

ソリューション

Master Collectionを利用し、タイポグラフィから書籍デザイン、Flashによるアニメーション作成までをカバーする。

ベネフィット

フォントを分解し、片仮名の組み合わせからオリジナルのタイポグラフィを作り上げる。

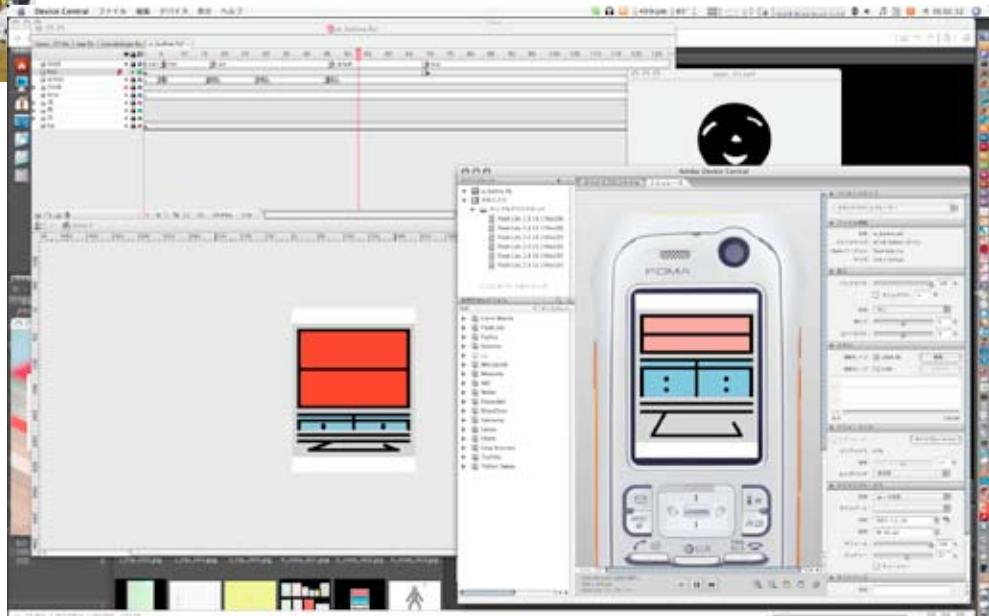
Tool Kit

• Adobe® Creative Suite® 3 Master Collection



Flashを利用してインタラクティブなムービーを作成する塚田氏

大日本タイポ組合では、Flashを利用したインタラクティブなムービー制作も手がけている。画面は携帯用待ち受けムービーの制作風景。Flashで制作したムービーは、Device Centralでプレビューし、細部のチェックを行っている。



Flashを利用した携帯の待ち受け画面では、その日の天気によって、「曇」という字が変形する仕掛けだ。晴れの日であれば曇という漢字の「日」の部分が広がり、雨の日ならば「雨」が広がるという仕組みになっている。「曇」の字を一番下の「云」という字は元来、「くも」を表す漢字だったことも偶然発見し、「曇」の漢字の中に「はれ」「あめ」「くもり」が全て含まれることを利用した文字遊びだ。

このほかにも事務機器の販売で有名なコクヨから、創作タイポグラフィを積み木にした「トイボグラフィ」を発売。組み合わせ方によって同じ意味の英文字と漢字が同じパーツから出来上がる。組み合わせ方次第では絵まで作ることができる知育玩具だ。

「どのような物やテーマであっても、その物にふさわしい自分なりの答えを見つけることに楽しさを覚えます。そのきっかけとなったのはやはり印鑑作りでしょうか。」

様々な方向性を模索しながら進化し続ける二人の作品には、いずれも大日本タイポ組合のこだわりを見ることができる。

アプリケーションの進化が発想に与える影響とは？

二人の作品づくりには、アプリケーションの持つ機能が大きくかかわっているという。たとえば、Illustrator 9では、レイヤーやオブジェクト単位で「描画モード」と「透明度」を設定できるようになった。これによって、複数の透明フィルムを重ねなければ見えないフォントを発明した。

「これは、シアン、マゼンタ、イエローと色別に出力した透明のフィルムを重ねないと文字が見えてこない、そんなフォントがあったら面白いかもと思って作ってみました。この作品なんかは、以前のIllustratorでは思い浮かばなかったでしょうね。」

このケースはアプリケーションの持つ機能を最大限に利用し、自らの発想へと役立てている好例とも言えよう。

では、現在、最新のバージョンであるAdobe CS3 Master Collectionを使用しているお二人だが、最新のバージョンでは、どのような機能に注目しているかを尋ねてみた。

「CS3ではIllustratorやPhotoshopとFlashのファイル互換がグンと上がって感動しました。たとえばレイヤーを保持したままデータがコンバートできたり、他のアプリケーションとの連携が良くなった。アプリケーション間の行き来が簡単だから、それぞれのアプリケーションを意識することなく、モノ作りに集中できますね。」

CS3の数々の新機能でさえも、二人にとっては新しいおもちゃを手にしたような感覚で使いこなしている。

今後も大日本タイポ組合が作り出す不思議な創作タイポグラフィに要注目だ。

アドビシステムズ株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2ゲートシティ大崎 イーストタワー・www.adobe.com/jp

Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA・www.adobe.com

アドビカスタマーインフォメーションセンター Tel.03-5350-0407 受付時間/平日9:30~17:30(土曜・日曜・祝日・弊社指定休日を除く)

Adobe、Adobeロゴ、Adobe Creative Suite、InDesign、Illustrator、PhotoshopおよびVersion Cueは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。OpenTypeおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標または登録商標です。MacintoshおよびMacは、米国Apple Computer, Inc.の米国および他の国の商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

©2008 Adobe Systems Incorporated. All right reserved.

